鹿児島市立桜丘中学校
令和4年5月20日

第2号

「成長」と「命のバトン」

校長　上久保大介

桜丘中学校は校門にたどり着くまでに、緩やかな登りのスロープがあります。その両側には**植え込み**があり、**季節ごとに色とりどりの草花**を楽しむことができます。今朝も登校指導を終えてスロープを上がるとき、その**景色の移り変わり**に心を和ませてもらいました。移り変わりとは言っても、昨日との違いは少しだけです。でもその違いに、ふと**「成長」**と**「命のバトン」**の尊さを感じたのです。

植物の変化とは言い換えると**「精一杯生きてるぞ」**という努力の表現であり、次の世代にきちんと命を引き継ぐための**責任感の表れ**だと思うのです。日によって、晴れの日もあれば、雨の日もあり、時には嵐の日もあります。晴れの日が続くと**「しおれる」ことにより「水が足りないぞ」と訴え**、養分が足りないと**「その身を細くする」ことにより、「栄養が足りないぞ」と訴え**ます。植物は自分や他者に対し、**素直に、隠すことなく、正直な想い**を私たちに伝えてきます。しかし、訴えながらも**生きるための努力**はし続けています。**植物は多くの自然の「しごき」に耐えながら、成長していきます。**これは、動物も同じです。植物であろうと、動物であろうと「**生**」**に対する執念とも言うべき本能のようなもの**なのでしょう。

私たち人間も同じで、ともすると植物や動物以上に**「厳しい状況」**があるのかもしれません。日々の生活の中で**「心が渇いている」**とか、**「不愉快な思いをした」**とか、**「悲しい気持ちになった」**とか。ときには**「過ちを犯してしまった」**ということもありますが、このようなときこそが**成長のチャンス**なのかもしれません。ネガティブな気持ちにふたをするのではなく、**はい上がる努力**をすることにより、**よりよい成長**が望めるのです。植物や動物と同じように、**自分を正直に表現すること**が大切であり、大人は子供が正直に表現できるようになるための手助けをしてやる存在であるべきだと私は思います。そして**真の意味での子供を守る**とはどういうことなのか。それは困難を取り除いてやることだけではなく、むしろ困難を乗り越える力を身に付けさせることだと思います。

冒頭で述べた植え込みの中の植物は、きっと**その命を次の世代に引き継いでいく**でしょう。弓道場の土手でもようやく**アジサイ**が力強く咲き始めました。**コロナ禍の中、子供たちの成長に対する様々な懸念**も示されていますが、**「with コロナ（コロナと共に）」**から**「without コロナ（コロナなしで）」**になったその日に、子供たちが自信を持って成長していけるよう、私たち大人ももう一踏ん張りしてみましょう。